

北見工業大学

学報

平成14年 5月 事務局総務課発行 第191号

平成14年度入学式



(関連記事 4 ページに掲載)

目 次

学長就任にあたって.....	3
平成14年度入学式	
告 辞.....	4
平成14年度入学式挙行.....	7
国際交流	
協定締結.....	8
中国への訪問記.....	8
入試関係	
平成15年度編入学生募集要項（一般選抜）.....	11
平成15年度編入学生募集要項（社会人特別選抜）.....	13
研究助成	
平成14年度科学研究費補助金交付内定.....	14
平成14年度民間等との共同研究の受入状況.....	16
平成13年度受託研究の受入状況.....	18
平成14年度受託研究の受入状況.....	19
平成13年度奨学寄附金の受入状況.....	19
平成14年度奨学寄附金の受入状況.....	20
人 事	
住所変更.....	20
海外渡航.....	20
諸 報	
学長主催の特別講演会の開催.....	21
留学生報告会及び留学生交流会の夕べの開催.....	23～24
永年勤務者退職時表彰.....	24
外国人研究者の受入について.....	25
規 程	
北見工業大学受託研究員取扱規程（昭和60年北工大達第2号）の 一部を改正する規程（北工大達第16号）.....	25
日 誌	
3月・4月	

* 住所変更等については5月25日まで掲載しました。

学長就任にあたって —教職員一丸となって—

学長 常本 秀幸

北見工業大学は、2000年の記念すべき一昨年創立40周年を迎えました。この間、学部・大学院の拡大、また研究環境の整備など着実に発展を遂げてきました。また、入学生も50%が本州からの学生と、大学設立当時は想像もつかなかったことだと思います。このように充実・発展できましたのは、歴代の学長の熱意と努力、それを支えてきた教職員の努力の賜であり、このことに敬意を表したいと思います。

しかし、このような右肩上がりの大学運営が、ここにきて「法人化」、「再編・統合」を想定し、内部充実を目指した運営へと大きく方向転換する必要に迫られています。まさに問題山積の中で第7代目学長を引き受けることになりましたが、私の決意と教職員に現状を認識してもらうために一言述べさせていただきます。

現在、本学教職員の総数は284人ですがその平均年齢は現在46歳に近づいております。講師以上の教官の平均年齢ほぼ50歳、助手で41.5歳、技官が一番若く37.2歳、職員も46.3歳になっております。ここ数年間で退官する教職員が約20人おりますが、10年後に平均年齢が5歳以上高くなることは間違いありません。年齢が高いことは、経験豊富な人材が増加し良い面もありますが、いわゆる組織活性化・人件費高騰等の点で問題も多くあります。幸い、大学には学生と言う常にフレッシュな若者がおりますので、この活力によって若さを保つことは可能ですが、これだけでは解決できません。

2年後に実施されるであろう法人化では、当初は現状に近い予算が運営費交付金として交付されますが、数年後の予算は学生数と教育・研究活力の評価結果によって決まると言われており、経験豊富な人材が多いだけでは高い評価は得られません。従って、与えられた交付金の中で大学を維持発展させるためには、多くの内部改革が必要になります。その最大課題が、小泉



首相ではないですが「統合無くして発展なし」と考えております。最近の政治の混乱を見ますと大学改革が遅くなるのではとの期待感がありますが、産業界の大学に対する批判と期待を考えますと時間的余裕はないと考えるべきです。大学間統合は、事務部門の共通化、教育分野の拡大、将来性のある新分野の創生等が可能になり、経営基盤の充実が期待できます。実りある統合を目指して慎重かつ大胆に進めて行く必要があります。

次に、法人化対応ですが、大学としての中期目標とそれを達成するための中期計画が重要になります。学科の改組あるいは学生定員などは、従来のように概算要求ではなく大学で決める事ができます。時代に即した学科・教官編成を進めながら「個性かがやく大学」を作らなくては いけません。北見工業大学を充実・発展させるため、各学科の「将来戦略」を伺いながら学科改組等を進めたいと思います。

大学の存在価値の指標は、入学希望者と就職先の確保にあります。大学の広報を充実すると共に、JABEEのような出口管理を早い内に達成したいと思います。また、博士前期課程への進学率の向上と、博士後期課程への進学者の確

保についても早急に検討いたします。これらは、今後の第三者評価において評価の対象になる項目であり、教職員が一丸となって努力する必要があります。

アメリカ第35代大統領、ジョン・F・ケネディの就任演説での有名な一節に、「あなたの国家があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたがあなたの国家のために何ができるかを問おうではないか」という部分があります。まさに、「国家」を「大学」に置き換え、これからの大学改革に協力をお願いしたいと思います。定年が近づいた教職員には、自分達の時代は何かかなると考えるのではなく、自分や家族を育

ててくれた大学の将来のため、最後の力を発揮してもらいたい。50歳前後の教職員には、これからの改革に大学の運命がかかっていることを自覚し、大いに発言していただくとともに、教育・研究等において大学のリーダーになってもらいたい。さらに若い教職員には、まさに将来の生活基盤を左右することになることを自覚し、自己啓発に最大限の努力をお願いしたい。

これからの大学は教職員と学生が一体となった総力戦になります。建設的な将来性のある議論を進め、北見工業大学を21世紀の「個性がやく大学」に作り上げるため、皆様のご協力をお願いいたします。

＝平成14年度入学式＝

告辞「夢に向かって挑戦しよう」

学長 常 本 秀 幸

北見工業大学工学部への入学・編入学ならびに大学院工学研究科博士前期課程および後期課程への入学を心より祝福いたします。また、ご多忙中にもかかわらず、ご臨席いただきましたご来賓ならびにご父母の方々に厚くお礼申し上げます。

本年度は、学部学生422人、高等専門学校等からの編入学生13人、大学院工学研究科博士前期課程111人、後期課程に8人が入学しております。この中で学部学生は、北海道以外からの入学者がちょうど50%になっており、これは本学始まって以来のことになります。日本最北端の国立大学である北見工業大学が、このように全国から注目をされるようになったことを教職員一同大変誇りに思っております。また、本学は国際交流にも力を注いで来ておりますが、本年度はマレーシア、韓国、中国などから学部、大学院合わせて15人の新たな留学生を迎えています。

さて、私もこの4月に学長になったばかりで君達と同様フレッシュマンですが、君達と送る

この2年間あるいは4年間は、まさに大学が大きく変革する時期にあたり、多くの課題が待ち構えております。その中でも君達と関連の深い内容について簡単に触れておきたいと思っております。

一つは、まだ決定はしていませんが、2年後から国立大学は法人化とあって、民間的発想の大学運営が求められることとなります。これは今、色々な分野から日本の大学教育の質の低下が、日本の技術開発力・経済力の低下を招いたとの批判を受けており、これに対応する大学改革の始まりとなります。例えば、これまでは教育研究の質の評価は大学独自で行ってきましたが、今後は専門の評価機関が大学の教育研究の現状を評価しますので、大学の質が明確になります。このような評価に対応するためには、教職員の努力はもちろんですが、学生の責任感・積極性・努力が重要になります。

また、もう一つの大きな問題に大学の再編統合があります。これは、大学の特徴を明確にしながら教育研究の質の充実をはかり、大学のさらなる発展を大学間で模索するものです。本学

も、工学の特徴を生かし地域貢献のできる大学を目指し統合問題を慎重に検討しております。この地域から大学が移動するのではないかと、学校の名前が変わるのではないかと、などの心配をされる人もいます。教育研究および地域貢献の充実を前提にしておりますので、君達が心配する事は全くありません。ただ、我々教職員が「個性かがやく大学」作りに努力することはもちろんのことですが、学生の自己研鑽に対する積極性が問われる事になりますので、北見工業大学の学生としての自覚が重要になります。

そこでまず、君達には国立大学である北見工業大学に入学したことに誇りを持ってもらいたいと思います。日本には約600の4年制大学がありますが、国立大学は99校しかありません。国立大学に入学できる学生は大学進学希望者の20%程度にとどまっています。これを18歳人口に対する比率で考えますと10%以下であり、君達は国家の未来を担う、選ばれた若者であると言うことを自覚してもらいたいと思います。

本学を選んだ理由はさまざまですが、国立大学は授業料が安いからと言われることがあります。しかし、国立大学の長所はそれだけではありません。本学の例で申しますと、年間収められる授業料は全学生で約10億円ですが、この4倍の約40億円で本学は運営されています。国は、このように授業料の数倍の費用を国立大学の学生に投資をしていることになります。また、施設・設備面においても、本学には毎年多額の資金が投入されており、来年の今頃はこの講堂の前付近に7階建ての建物が建つ予定です。まさに、国が北見工業大学の君達に大きな期待を寄せている表れと言えます。

もちろん、これらはこれまでの本学の特徴ある教育研究活動が評価された結果でもあります。例えば、未利用エネルギーとして注目されているメタンハイドレートの開発拠点として研究センターが設置されております。また、寒冷地に関連した研究開発が国内外から高く評価されており、南極での越冬隊経験者も4人を数えるま

でになっております。その他にも、福祉支援型のロボットやソフト開発を目指したベンチャービジネスラボラトリーが活動を開始しております。

このように、君達の期待や希望に応えられる教育研究体制は、国立大学、北見工業大学だからこそできているのだと自慢してもらって良いと思います。これに、君達の努力が加われば、本学はさらに発展していくことは間違いありません。教職員一同、熱いまなざしで君達の努力に期待しております。

しかし、裕福な時代に生まれた若者は、最近「夢」を持たなくなったと言われております。「夢」を持つこと、それが若さの象徴です。「夢」はまさに夢のような話もありますが、努力によって達成できる「夢」も多くあります。

昨年起こったニューヨークでのテロ事件に加え、経済の失速、政治・社会のモラルの低下などで、未来に失望感を抱く若者が増えていると聞いております。しかし、世界を見渡すとそんな贅沢を言っておられません。

今、世界の人口は60億人を超えましたが、最近インターネット上でも話題になっている「もし世界が人口100人だったら」という記事が本となって出版されております。この統計によりますと、100人の内、大学に行くことができるのはたったの1人で、70人の大人の14人が文字を読めません。小学校を卒業できる子供が50%以下の国も多くあります。年間10人死亡しますが、その内1人は食料難で死んでいます。安全な水を飲めない人も、17人もいます。日本という恵まれた環境で育っていますが、世界の多くの国の、多くの方が苦しんでいます。

今、君達に持ってほしい「夢」の一つに、世界の平和と安全に貢献する技術者を目指す、という夢です。君達が学ぶ学問・知識は、世界の最先端のものであり、その知識を必要としている国は数多くあります。世界の平和と安全に側面から貢献するために海外で活躍する、そんな学生が増えてくることを願っています。

一昔前の話になりますが、優秀な子供のことを「未は博士か大臣か」といって、親は子供の

将来に夢を抱きました。最近では政治家・大臣の質が問われるような問題が多く、「大臣」は親の夢からも遠ざかっているかと思いますが、「博士」は君達にとっても身近な存在であり、努力次第では実現性が高く、手の届く「夢」だと思います。

本学では、1、2学年では基礎的な学問を中心に教育し、3、4学年で専門分野の知識を学んでもらいます。大学では、覚える教育でなく自ら考える教育を目指していますが、これらの教育を通して専門分野に興味を持ってもらい、高度技術者として巣立つことを期待しています。これが大学院です。現在35%近い学生が進学していますが、君達が卒業する頃には50%になるよう大学院の充実を図りたいと思っています。その中から、創造性あるいは研究能力に優れた学生を「博士」として育てるのが本学の教育の役割です。この博士号を取る「夢」にも挑戦してください。

最後に、最近話題のテレビ放送で「プロジェクト X」という番組がありますが、君達の中でも見た人が多いと思います。この番組では多く

の分野の人が取り上げられておりますが、どちらかと言うと日本のこれまでの工業技術力を支えてきた技術者の挑戦と努力の足跡を知ることができます。

例えば、富士山頂に巨大アンテナを立てた土木技術者、VHS を世界規格にした電気技術者、ロータリーエンジンを世界で最初に実用化した機械技術者、画期的な液晶を開発した材料技術者などなど、その挑戦心と努力の足跡はまさに感動を呼び、挑戦することの重要性を教えられます。

技術者の夢は、自分の開発したもの・作ったものが世の中に認められ、社会の発展や平和あるいは安全に貢献することだと思います。

「夢」を持つこと、あきらめないで「努力」を惜しまず「挑戦」すること、必ず可能性は見えてくるものです。英語の格言に Wishes come true. という言葉があります。これは「願いはかなう」と訳します。Wishes come true. 「夢」を持つこと、その実現に向け君達の努力と挑戦に期待し、告辞といたします。



平成14年度入学式挙行

(総務課)

平成14年度入学式が、4月4日(木)午前10時から、本学講堂で行われました。

学長から、学部422人、学部編入学13人、大学院博士前期課程111人及び大学院博士後期課程8人の入学が許可された後、学長告辞、入学代表宣誓及び役職員紹介が行われ、式は無事終了しました。

なお、入学者数は次のとおりです。

学部

学 科 名	入学者数(人)
機械システム工学科	83
電気電子工学科	83
情報システム工学科	61
化学システム工学科	60
機能材料工学科	50
土木開発工学科	85
合 計	422

学部編入学

学 科 名	入学者数(人)
機械システム工学科	1
電気電子工学科	2
情報システム工学科	2
化学システム工学科	0
機能材料工学科	3
土木開発工学科	5
合 計	13

大学院博士前期課程

専 攻 名	入学者数(人)
機械システム工学専攻	21
電気電子工学専攻	16
情報システム工学専攻	8
化学システム工学専攻	20
機能材料工学専攻	15
土木開発工学専攻	31
合 計	111

大学院博士後期課程

専 攻 名	入学者数(人)
システム工学専攻	6
物質工学専攻	2
合 計	8

＝国際交流＝

中華人民共和国・東北林業大学及びバングラデシュ・ダッカ大学との学術・教育交流協定締結

(総務課)

このほど、中華人民共和国・東北林業大学及びバングラデシュ・ダッカ大学とそれぞれ本学との間で、学術・教育交流協定及び学生交流に関する覚書を締結しました。

東北林業大学は、黒竜江省ハルビン市にキャンパスを置き、森林科学、工学、理学、経済学、法学等の教育・研究分野を有する中国でも数少ない教育省直轄の総合大学です。2001年5月に厚谷前学長が同大学を訪問した際、李堅校長から直接協定締結の申し入れがあり、その後の両者協議を経て、2002年3月23日付けで締結されたものです。

ダッカ大学は、工学、理学、医学の他、人文・社会科学系を含む多数の学部で構成されるバングラデシュ有数の総合大学であり、本学では、これまでも電気電子工学科を中心に研究交流を重ねてきた実績があります。今回、さらに全学レベルでの学術・教育交流を推進すべく、2002年3月12日付けで協定が締結されたものです。本学としては、南アジア圏の大学とは初めての協定締結となります。

今後は、教育・研究両分野での活発な交流が期待されるところです。

東北林業大学を訪ねて

化学システム工学科教授 鈴木 勉

1. はじめに

標記大学との学術交流締結のため、厚谷郁夫学長(当時)に随行して中国黒竜江省ハルビン市へ向けて本学を出発したのは、まだ寒さの残る本年(平成14年)3月19日、教授会終了後の18時であった。この退任直前の厚谷学長の海外渡航は、在任中積極的に推進してきた国際交流事業の懸案事項を、自らが締め括るといふ強い意欲の現れである。常本秀幸副学長(現学長)、山岸喬留学生教育相談室長、高橋秀真総務係長と共に私が同行した理由は、当大学が本研究室の留学生王曉水君(現在博士後期課程2年生)の卒業校で、彼の本学在籍前の勤務先だったからである。ハルビン行きを王君の学位取得後と決めていた私は、その機会が早く到来したことにやや動揺した。この一行に王君が通訳兼案内役として加わることで気持ちの整理を余儀なく

される、そうした予感の旅立ちであった。

2. 베이징(北京)経由ハルビン行き

3/20 東京は快晴、桜満開である。品川のホテルからバスで成田へ移動し、10:35発の日航機に搭乗、先ず北京へ飛ぶ。私には初めての中国行きであったが、気持ちの高ぶりはほとんどない。中国はもう身近な存在である。4年半ぶりに帰国する王君の表情には、普段見られない硬さがあった。感激、期待、緊張、不安を見てとれるのは、私達が同胞であることの証だろう。13:35 北京空港着、空港内の新しさと方向指示の英語併記はアメリカの影響を物語っている。窓外はスモッグ?、後でこれが黄砂のためと知る。乗り継ぐ中国国際航空ハルビン行きは17:50発、空港内待機中にお茶を楽しむ。クーニャン(お嬢さん)のお点前を間近に見ながら、言

葉の壁を痛感する。16:30過ぎ ハルビン行きの待合所へ移動、西方にくっきりと白い太陽を見る。灰色の空には何とも奇妙である。夕闇が迫り、いよいよ搭乗。機内は満席、前後から聞こえる早口の言葉のやりとりは、当然ながら理解不能。機内食サービスのスチュワーデスに中国語で問い掛けられ戸惑ったが、なるほどと納得。隣席の学長は熟睡、これがタフさを支える秘訣だろう。19:30 暗闇のハルビン空港に到着。出口に向かって歩きながら王君に「着いたね」、「ええ」と笑顔で答える声は心なしかトーンが高い。

外はひんやりだが、意外にも雪はない。ハルビン工程大学（以下、工大）呉慶文先生出迎えの車に乗り込み、一路ホテルへ向かう。郊外、旧市街地を抜けて中心部に入ると車と歩行者が増え、ネオンと高層ビルが目立ち始める。道路も広い。さすがに人口900万人以上を擁する大都市である。1時間ほど走って車は西洋の博物館を思わせる建物前に停車。ここが今夜と明晩宿泊する新世界北方酒店、内部は小綺麗なロシア風の装飾である。いったん自室に引き上げた後、ホテルのレストランに一同集合して軽食＋一杯。皆安堵の顔である。この後、私は王君とタクシーを駆って彼の家族が住むアパートを訪れた。時刻は既に10時を回っていたが、快く(?) 迎えて頂いた。ご両親のお話から、王君に抱く期待と私に託す思いが伝わってくる。20分少々で辞したが、満足である。これで今回のハルビン訪問の目的の半分は達成した。

3 . ハルビン工程大学と東北林業大学の訪問

3/21 ハルビンの早朝は薄曇り、午前は大工を表敬訪問、午後は林業大学（林大）との協定調印である。再び呉先生と、通訳の王映哲先生（女性）の出迎えを受け、9時半過ぎにホテルを出発、工大の計らいで1時間余りの市内見学となった。風は強かったが青空が覗き始める下で、ピザンチン風のソフィア聖堂を見上げ、ロシア建築が立ち並ぶ繁華街 - 中央大街（写真1）を歩いた。評判に違わず美しい街並である。買い物市場（デパート）にも足を踏み入れた。



写真1 石畳の中央大街（右端が王映哲先生）



写真2 ハルビン工程大学の応接ルーム
（右側中央が邱校長、その右隣が張副校長）

店内の様相は日本と大差なく、店員の服の着こなしと豊富な品揃えに中国の急成長ぶりを垣間見た思いがする。松花江（アムール河）と、ほとりのスターリン公園は次回にお預けである。

11時を過ぎて工大に到着。厚谷学長とは旧知の邱長華校長先生、張曙副校長先生（次期校長）らの歓迎を受けて談笑が弾む（写真2）。王先生の素敵な笑顔と優しい人柄が、和やかさを盛り上げている。さすがは日本語教育担当、微かな言い回しにも精通している。対する王君も立派、メモをとりながら慎重に堂々と受け答えする。この場では私の poor English は全くの不要、杞憂に終わる。場所を移しての昼食会、テーブルには所狭しと料理が並び、中央には大根と人参を彫った鶏と塔が置かれていた。肉が苦手な私は主に野菜を頂き、隣の張先生と英語で小会話。この先生の英語力はなかなかのものである。大根彫刻は公式の歓迎会に使うとのこと、その精巧な出来映えにお土産として頂いた。本学と

工大との友好関係が常本学長 - 張校長時代にも受け継がれることを確信して各先生とお別れの握手、本学での再会を約束する。

15時を少々回って林大に到着、直ちに調印式に臨む。事前交渉済みとは言え先ず双方の意志確認、初めに厚谷学長が従来の経過を説明して挨拶、続いて李堅校長先生の決意表明となる(林大の通訳は任力先生、やはり日本語教育担当だが男性、豊富な語彙と巧みな和訳は相当な実力を印象づける)。この大学は数少ない中国教育省直轄の国立大学で、我が国に置き換えれば旧国立一期校に相当する名門と言うところだろう、李先生の「演説」にもそのプライドが見え隠れする。もちろん日本の林学・林産学(現在は森林科学と総称)の分野ではかなり名前が通っており、これまでに東大院農、北大農、東京農工大、島根大学と交流協定を結んでいる。しかし、その知名度のわりに協定校が少ないのは、形式だけの対応を避ける李校長の方針 - 堅実さのためか、本学との協定締結についても慎重に検討したと思われる。上記4大学と違って本学は森林科学系の学科も講義科目もない異質の相手であり、窓口は当面私個人である。王君のPRが効を奏したことは間違いなく、嬉しくないと言えば嘘になるが荷が重いのが本音である。李先生が協定書にサインして厚谷学長と握手する姿を見ながら、サイは投げられたことを実感、「王君は2年後学位を取得します」と一同に告げた。この発言なくしてこの場に臨む意味はない、今



写真3 東北林業大学での交流協定調印

(前列左から曹軍副校長、李堅校長、厚谷学長、常本副学長、後列左から山岸先生、任力先生、私、王君、王玉龍先生、高橋係長)



写真4 パンダの毛皮

朝からそう考えていた。この後記念写真(写真3)を撮影し、世界的にも珍しいパンダ(写真4)その他のほ乳類の毛皮、鳥獣の剥製を陳列した標本室、林産化学系の実験室、収容人数10000人という学生食堂(写真5)等を見学した。建物の新設、増設が進む広々としたキャンパスと夥しい数の学生の往来は正に中国パワー、圧倒される勢いに我が国の行く末を懸念するものほんの束の間、車は晚餐会会場に到着した。

18:40 着席、挨拶する主催者李先生の先刻の厳格な表情が柔和な笑顔に変わっている。しばしの食事と歓談の後、恒例の中国式乾杯が始まる。口火は隣席の曹軍副校長先生、乾杯の理由を述べて、小グラスのお酒を皆が一気に飲み干す。出席者全員が乾杯の音頭取りを済ませ、後は各自が自発的に名乗りを上げて乾杯が繰り返される。このお酒は強い(辛い)、待っているとつぶれる。意を決して起立し、「世界を目指して研究を続けます、たくさんのスタッフ、留学生を私の元へ送って下さい」と宣言。これで迷いは吹っ切れた、本務完了の心境である。程なくして劉一星先生が現れた。京都大学で学位を取った劉先生とは台湾や日本の学会で数回会い、専門は異なるが顔馴染みである。固く握手して酒を酌み交わす。真面目な彼に冗談は通じない、と思いきや突然カラオケ「北国の春」を流暢に歌い始めた。私も思わず席を立ち、肩を組んでの合唱となる。今夜のハルビンは満天の

星？だったかどうかは覚えてない。

4. おわりに

翌22日朝ハルビン空港を発ち、昼過ぎに北京着、ここも桜が満開であった。余録で故宫（紫禁城）を訪れ、広大な敷地内の建築美を堪能、夜は本場の食文化を体験した。23日北京から13：35成田着にて帰国、羽田、女満別と乗り継いで午後7時半無事本学に到着。4泊5日のタイトなスケジュールではあったが、私には意義深いハルビン訪問となった。実際林大との交流が始まって、今回以上の感慨はないだろう。この機会を与えて頂いた厚谷学長、常本副学長には衷心より謝意を表します。山岸先生、高橋係長にも何かとお気遣い頂き、有難うございました。渡航準備を進めて頂いた関係事務官の

方々にも厚く御礼を申し上げます。王君もご苦労さま、2年後のハルビン同行を楽しみにしながら、君の誠意と責任感の強さに改めて敬意を表します。最後に工大、林大の今後益々の発展を祈念しながら、シェイシェイ、サイチェン。



写真5 近代的な東北林業大学の学生食堂

=入試=

(入学主幹)

平成15年度編入学学生募集要項

I 学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員		備 考
	推薦による 選 抜	学力試験に よる 選 抜	
機械システム工学科	10人	若干名	募集人員については、推薦及び学力試験において可能な限り多数受け入れることとする。
電気電子工学科			
情報システム工学科			
化学システム工学科			
機能材料工学科			
土木開発工学科			

II 推薦による入学者の選抜

1 出願資格

高等専門学校を平成15年3月卒業見込みの者

2 推薦基準

出身学校長が責任を持って推薦できる者で、次の各号に該当する者

- (1) 3年次及び4年次の学業成績の平均が、原則として現員の上位1/3以内の者で、人物、学業ともに優れ、本学での勉学意欲にあふれる者
- (2) 席次を定めていない場合は、上記(1)と同等以上であると出身学校長が認めた者
- (3) 他大学に重複して推薦されていない者

3 志望学科

高等専門学校で在学している学科と必ずしも同系列でなくてもよいが、その場合、本学での修業年限が2年を越えることがある。

4 出願書類等受付期間

平成14年6月3日(月)から
平成14年6月6日(木)まで
午後5時必着

5 出願手続 略

6 選抜方法

推薦による入学者の選抜は、出身学校長から提出された調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う。ただし、本学が必要と認めた場合や、志望学科が高等専門学校で在学している学科と同系列でない場合は、面接を行う。

(1) 面接(該当者のみ)

平成14年6月12日(水)

(2) 健康診断 略

7 合格発表

平成14年6月19日(水) 午後4時予定

Ⅲ 学力試験による入学者の選抜

1 出願資格

- (1) 短期大学・高等専門学校を卒業した者及び平成15年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第82条の10に規定する専修学校の専門課程を修了した者及び平成15年3月修了見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における13年又は14年の課程を修了した者

2 出願書類等受付期間

平成14年6月26日(水)から
平成14年7月2日(火)まで
午後5時必着

3 出願手続 略

4 選抜方法

学力試験による入学者の選抜は、学力検査、面接、出身学校長から提出された調査書及び健康診断の結果を総合して行う。

(1) 学力検査等期日

平成14年7月10日(水)

(2) 学力検査日程

学科	時間	8:40 ~9:50	10:00 ~11:10	11:20 ~12:30	13:30 ~15:30	15:40 ~
機械システム工学科	物 理 数 学 英 語 専門科目 面 接					
電気電子工学科						
情報システム工学科						
化学システム工学科						
機能材料工学科						
土木開発工学科						

(3) 学力検査科目

学 科	専 門 科 目
機械システム工学科	材料力学、熱力学、流体工学
電気電子工学科	電気磁気学、電気回路理論
情報システム工学科	電気回路理論、情報数学
化学システム工学科	物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、化学工学の5科目から1科目選択
機能材料工学科	物性物理、物理化学、有機化学の3科目から1科目選択
土木開発工学科	構造力学、水理学、土質力学

5 合格発表

平成14年7月17日(水) 午後4時予定

Ⅳ 編入学の年次

編入学の年次は、3年次となる。ただし、学科によっては、1・2年次に開講される専門科目の一部を履修させることがある。

Ⅴ 入学時に要する経費

入学料 282,000円
授業料(前期分) 260,400円(改定予定額)
【年額520,800円】

平成15年度編入学学生募集要項 社会人特別選抜

学科によっては、1・2年次に開講される専門科目の一部を履修させることがある。

I 学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員
機械システム工学科 電気電子工学科 情報システム工学科 化学システム工学科 機能材料工学科 土木開発工学科	各学科とも若干名

VIII 入学時に要する経費

入学料 282,000円

授業料（前期分）260,400円（改定予定額）
【年額520,800円】

II 出願資格

入学時において企業等に正規の職員として2年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当する者

- (1) 理工系の高等専門学校を卒業した者
- (2) 理工系の短期大学を卒業した者
- (3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に2年以上在学し、62単位以上を取得し退学した者

III 出願書類等受付期間

平成14年6月3日（月）から

平成14年6月6日（木）まで

午後5時必着

IV 出願手続 略

V 選抜方法

入学者の選抜は、個人面接、調査書、推薦書、志望調書及び健康診断の結果を総合して行う。

- (1) 面 接 平成14年6月12日（水）
- (2) 健康診断 略

VI 合格発表

平成14年6月19日（水）午後4時予定

VII 編入学の年次

編入学の年次は、3年次となる。ただし、

＝研究助成＝

平成14年度科学研究費補助金交付内定

(総務課)

○基盤研究(A)(2)海外学術調査

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
未利用エネルギー研究センター	教授	庄子 仁	オホーツク海におけるメタンハイドレートの採取および総合解析による産状研究	10,270千円 (平成15年度 13,600千円) (平成16年度 2,100千円) (平成17年度 2,400千円)		

内定額中、2,370千円については間接経費

○基盤研究(B)(1)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
共通講座	教授	大野 晃	農山村における内発的発展と環境保全	3,000千円 (平成15年度 2,800千円) (平成16年度 2,900千円) (平成17年度 1,600千円)		

○基盤研究(B)(1)海外学術調査

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
化学システム工学科	教授	吉田 孝	漆の植物資源としての持続的循環活用システム - 調査と構築	2,900千円 (平成15年度 1,800千円)		

○基盤研究(B)(2)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
情報システム工学科	助教授	原田 康浩	レーザー放射圧と自己組織化現象を用いる3次元フォトニック結晶創成法の開発と応用	4,900千円 (平成15年度 4,300千円) (平成16年度 2,300千円)		
電気電子工学科	教授	山城 迪	インテリジェント機能付き PV-ECS システムの開発	4,800千円 (平成15年度 2,400千円)		
機能材料工学科	教授	青木 清	反応分離型水素製造要素としての新規水素透過合金膜の合金設計と組織制御	7,900千円 (平成15年度 3,500千円) (平成16年度 3,500千円)		

○基盤研究(B)(2)展開

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機械システム工学科	教授	坂本 弘志	吹雪障害防止のための翼型誘導板を有する新型高性能吹止め式防雪柵の研究開発	1,000千円		

○基盤研究(C)(1)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
化学システム工学科	教授	鈴木 勉	金属との複合化による木質由来炭素の高・多機能化 - メソ細孔を有する高結晶炭素の製造	1,700千円 (平成15年度 1,000千円) (平成16年度 800千円)		

○基盤研究(C)(2)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
共通講座	教授	照井日出喜	フランクフルト学派の批判理論に関する研究	900千円		
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	冬季日本海沿岸季節風による海塩汚損と着雪によるポリマーがいしの絶縁特性	500千円 (平成15年度 500千円)		
電気電子工学科	教授	野矢 厚	フィールド酸化膜上での銅配線に対する極薄・低抵抗バリアの基礎的検討	900千円		
土木開発工学科	教授	高橋 修平	南極表面質量収支における積雪再配分効果の研究	1,000千円 (平成15年度 700千円)		
機械システム工学科	教授	羽二生博之	衛星ミリ波画像を用いたオホーツク海の流水流動解析における流体力学的計測技術の応用	900千円		
電気電子工学科	教授	田村 淳二	超電導限流器による電力系統の総合的安定化に関する基礎的研究	1,100千円		
機能材料工学科	教授	佐々木克孝	タンタル系固溶体合金の陽極酸化膜による薄膜コンデンサの作製とその信頼性の評価	1,100千円		
土木開発工学科	教授	大島 俊之	橋梁のインテリジェント化と耐震安全性のスマートモニタリング技術の開発	1,800千円		
土木開発工学科	助手	中尾 隆志	中小規模流域における土壌水分の評価法に関する基礎的研究	900千円		
機能材料工学科	教授	佐藤 充典	高温酸化物超伝導ウィスカー単結晶の作製と高周波素子への適用	1,000千円		
化学システム工学科	助教授	星 雅之	アルケニルホウ素化合物を利用する末端共役エンインの立体選択的合成	1,100千円		
情報システム工学科	教授	山田 浩嗣	単純楕円型特異点と附随する周期写像のLie環論的構成	2,100千円 (平成15年度 1,400千円)		
機械システム工学科	助教授	藤木 裕行	スタビライザータイプ人工膝関節の動的動作解析と最適設計	1,600千円 (平成15年度 900千円)		
機械システム工学科	助手	宮越 勝美	凍結路面のスリップ防止に散布されたピリ砂利の噴流を用いた高性能回収システムの開発	2,000千円 (平成15年度 1,000千円)		
情報システム工学科	教授	鈴木 正清	信号源定位のためのデジタル信号処理	1,900千円 (平成15年度 1,200千円) (平成16年度 500千円)		
土木開発工学科	教授	鮎田 耕一	熱的挙動分析に基づく海洋コンクリートの凍害機構に関する研究	1,600千円 (平成15年度 800千円)		
土木開発工学科	教授	海老江邦雄	STI値を指標とする凝集沈澱と強化ろ過との併用による浄水処理の高効率化	2,100千円 (平成15年度 1,300千円)		
機能材料工学科	助教授	松田 剛	遷移金属酸化物系ナノ多孔体の合成とアルカン異性化反応に対する触媒特性の検討	1,900千円 (平成15年度 1,000千円) (平成16年度 700千円)		

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
化学システム 工 学 科	助教授	堀内 淳一	プロテオーム解析に基づくリジン発酵の解析と最適化	2,700千円 (平成15年度 500千円) (平成16年度 500千円)		
情報システム 工 学 科	教 授	藤原 祥隆	双対空間の因果関係に着目した自己組織化・自己適応化型知識ベースシステムの研究	2,200千円 (平成15年度 800千円) (平成16年度 600千円)		

○若手研究(B)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機械システム 工 学 科	助教授	閻 紀 旺	単結晶シリコン製大口径赤外線非球面レンズの新しい超精密切削法の開発	700千円		
情報システム 工 学 科	講 師	後藤文太郎	時間を考慮した知的情報アクセス技術の獲得に関する研究	800千円		
共 通 講 座	助教授	小川 芳 樹	数量詞と束縛代名詞の分析に基づく普遍文法の解明	700千円 (平成15年度 800千円)		
情報システム 工 学 科	助 手	嘉田 勝	実数の集合論とその応用	1,100千円 (平成15年度 800千円) (平成16年度 800千円)		
情報処理 セ ン タ ー	助教授	青山 茂義	11Liのペアリング、ソフトダイポール、クラスター励起機構の解明	700千円 (平成15年度 300千円) (平成16年度 300千円)		
情報システム 工 学 科	助 手	酒井 考和	インポートランスサンプリングのターボ符号への適用に関する研究	1,200千円 (平成15年度 1,100千円) (平成16年度 900千円)		
化学システム 工 学 科	教務職員	服部 和幸	超分子構造を利用した高強度・高弾性率を有する新規セルローズ繊維の開発	900千円 (平成15年度 800千円) (平成16年度 800千円)		

平成14年度民間等との共同研究の受入状況

(総 務 課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
化学システム工学科	助教授	山田 哲夫	カラマツ活性炭の連続生産に関する研究	訓子府石灰工業(株)
機械システム工学科	教 授	富士 明良	生分解性プラスチックの強度並びに分解特性に関する研究	(株)北翔システム
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	有機系廃棄物を原料とする高機能炭を活用したふん尿分離技術の確立及び汚水処理に関する研究	(株)エース・クリーン
機械システム工学科	助教授	山田 貴延	マイクロガスタービンコージェネシステムを用いた高効率融雪槽の開発	(株)カ ナ モ ト

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
土木開発工学科	助教授	前田 寛之	水環境浄化システムの開発研究	安 全 建 設 (株)
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	バイオガスの有効利用に関する研究	北 見 市 企 業 局
化学システム工学科	助教授	堀内 淳一	嫌気性消化汚泥の効率的コンポスト化に関する研究	北 見 市 企 業 局
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	寒冷地における下水汚泥の有効利用に関する研究	北 見 市 企 業 局
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	北見市における水道事業マスタープランの研究	北 見 市 企 業 局
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	下水汚泥土壌中の肥効成分の定量に関する研究	斜 里 町
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	寒冷地における水道水の高効率処理に関する研究	北 見 市 企 業 局
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	寒冷地における下水汚泥の有効利用に関する研究	留 辺 薬 町
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	寒冷地における下水汚泥の有効利用に関する研究	美 幌 町
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	下水汚泥・土壌中の肥効成分の定量に関する研究	津 別 町
情報システム工学科	教 授	藤原 祥隆	企業活動の意志決定支援のためのデータマイニング技術の研究	リコーシステム開発(株)
機能材料工学科	教 授	増田 弦	北見市における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	北 見 市 企 業 局
機能材料工学科	教 授	増田 弦	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美 幌 町
機器分析センター	助教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋 別 市
機器分析センター	助教授	南 尚嗣	津別町における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	津 別 町
化学システム工学科	助教授	高橋 行雄	留辺薬町における下水汚泥・放流水中の微量有機・無機成分の長期モニタリングに関する研究	留 辺 薬 町
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜 里 町
化学システム工学科	助教授	高橋 行雄	下水汚泥及び放流水から発生する臭気成分の定量に関する研究	北 見 市 企 業 局
機械システム工学科	助 手	石谷 博美	Eng 実車耐久性特性値測定手法の確立	いすゞ自動車(株) 北海道試験場

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
電気電子工学科	教 授	山城 迪	ソーラーバイオトイレの実用化研究	(株) シ オ ン
土木開発工学科	助教授	川村 彰	路面プロファイル測定システムの開発	いすゞ自動車(株) 北海道試験場
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	食品中微量成分の機能性に関する研究	(株)絵夢企画セルフイー
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	プテロカルパン含有道産豆類の機能性食品への応用	(財)北海道科学技術 総合振興センター
土木開発工学科	講 師	澤田 正剛	無放流型家畜し尿処理施設における水分蒸散量測定に関する実証試験研究	(株)平成マテリアル
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	溶射プロセスの高度化に関する研究	(株)倉本鉄工所
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	耐食性に優れた木材乾燥機内面処理用皮膜の開発	(社)北見工業技術 セ ン タ ー
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	撥水性、抗菌性溶射皮膜の開発	北 辰 土 建 (株)
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにゴミ質調査、作業環境調査	北 見 市
化学システム工学科	助 手	岡崎 文保	微細気泡発生器を用いたエアレーションの酸素移動効率測定	(株)森機械製作所
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	北見市環境調査研究	北 見 市

平成14年度合計 34件

平成13年度受託研究の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 円
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	永久凍土地帯のメタンハイドレートの安定性と生成解離に係る NMR によるガスハイドレートの安定性と構造に関する研究 平成14年1月～平成14年3月	独立行政法人 産業技術 総合研究所	1,062,000

平成13年度累計 15件

平成14年度受託研究の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研究担当者	研究 題 目 及 び 研 究 期 間	委託機関	所要経費
土木開発工学科	教 授	榎本 浩之	衛星リモートセンシングによる北極圏の 海氷変動シグナルの検出 平成13年10月～平成14年9月	財団法人 地球科学技術 総合推進機構	円 3,752,700
機械システム工学科	教 授	大橋 鉄也	デバイス構造設計技術の開発 平成14年4月～平成15年3月	科 学 技 術 振 興 事 業 団	2,689,000
土木開発工学科	助教授	川村 彰	超大型航空機の地上走行時動的運動特性 を考慮した空港舗装施設構造に関する基 礎的研究 平成14年4月～平成15年3月	運 輸 施 設 整 備 事 業 団	2,000,000

平成14年度合計 3件

平成13年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	「工学研究」に対する研究助成	小太郎漢方製薬(株)	円 400,000
機械システム工学科	助教授	三木 康臣	「工学研究」に対する研究助成	三 木 康 臣	150,000
共 通 講 座	教 授	平野 温美	「アメリカ文学研究」に対する 研究助成	平 野 温 美	600,000
機能材料工学科	教 授	青木 清	「金属水素化物の平衡解離圧調 査」に対する研究助成	(株)アグネ 技術センター	500,000
化学システム工学科	教 授	赤塚 邦彦	「工学研究」に対する研究助成	(株)共立理化学研究所	65,700
	学 長	厚谷 郁夫	学生の進路指導、大学説明会等 の事業推進に対する助成	北見工業大学 学 生 後 援 会	1,000,000

平成13年度累計 101件

平成14年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
地 域 共 同 研究センター	センター長	鈴木 輝之	オホーツク地域の行政・民間機 関との共同研究・研究交流及び 技術指導、教育、開発等の推進 に対する助成	北見工業大学 地域共同研究センター 推進協議会	100,000 ^円
地域共同研究 セ ン タ ー	センター長	鈴木 輝之	地域共同研究センター産学連携 コーディネート活動事業に対す る助成	地域共同研究 セ ン タ ー 長 (全国中小企業団体中央会)	214,628
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	「耐熱性電磁波吸収体の研究」 に対する研究助成	綱 淵 輝 幸	98,000

平成14年度合計 3件

=人事=

海 外 渡 航

○外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡航目的及び渡航先国	期 間
機能材料工学科	助 手	張 強 斌	大学交流協定締結校からの招待講演、 超微量金属の定量及び水資源の評価 に関する現状調査並びに研究打合せ (中華人民共和国)	14.4.28 ~ 14.5.19
土木開発工学科	助 教 授	川 村 彰	空港技術に関する国際会議出席 (アメリカ)	14.5.3 ~ 14.5.11
土木開発工学科	教 授	大 島 俊 之	ISO 会議出席 (アメリカ)	14.5.7 ~ 14.5.11
情報処理センター	助 教 授	青 山 茂 義	国際会議「4 th Catania Relativistic Ion Studies」参加、発表 (イタリア)	14.6.7 ~ 14.6.17
電気電子工学科	助 教 授	菅 原 宣 義	国際大電力システム会議(CIGRE)の ワーキンググループ22.16会議出席 及び構造物への大気着氷に関する国 際ワークショップ(IWAIS)への参加、 国際顧問委員会出席 (チェコ)	14.6.11 ~ 14.6.22

○海外研修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
共 通 講 座	教 授	下 村 五 三 夫	民族音声分野での成果発表と講演及び共同研究成果出版打合せ (フィンランド、ポーランド)	14 4 24 ~ 14 5 7
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	教 授	田 牧 純 一	第3回欧州精密工学・ナノ技術国際会議出席及び論文発表、討論、研削技術研究所にて研究打合せ (オランダ、イギリス)	14 5 26 ~ 14 6 .1

＝諸報＝

学長主催特別講演会

－文部科学省高等教育局小山竜司大学課課長補佐－
－東北大学工学研究科岡田益男教授－

(総務課)

去る3月14日(木)に、学長主催特別講演会が開催されました。

はじめに、文部科学省高等教育局小山竜司大学課課長補佐から「国立大学を取り巻く諸課題について」、次いで、東北大学工学研究科岡田益男教授から「大学評価機構の行う評価の行方

- 英国の教育・研究評価システムに学ぶ - 」と題して、講演が行われました。

小山課長補佐からは、「新しい国立大学法人

像について」の概要説明及び国立大学の再編・統合について、岡田教授からは、英国の評価システムの在り方や、大学評価・学位授与機構運営委員としての大学評価の考え方等について、各々1時間という短時間にも関わらず大変有意義な講演をいただきました。

学長を始め約40人の教職員は、熱心に聞き入っていました。



小山竜司大学課課長補佐



岡田益男教授

学長主催特別講演会

－ロシア地質学海洋鉱物資源研究所 バレリーA. ソロビエフ博士－

(総務課)

去る3月27日(水)、本学SCS教室において、ロシア連邦サンクト・ペテルブルグ市にある、ロシア地質学海洋鉱物資源研究所ガスハイドレート地質学研究室長バレリーA. ソロビエフ博士をお招きし、「天然ガスハイドレート - その研究最前線 - 」と題した学長主催特別講演会が開催されました。

ソロビエフ博士(60歳)はモスクワ大学の出身で、博士の研究所と本学とは、最近「ガスハイドレート共同研究のための覚書」を交換したばかりで、本学の未利用エネルギー研究センターとの共同研究がスタートしています。

博士は、これまでに「ロシア天然資源省名誉探鉱者メダル」や「ロシア科学アカデミーI.M. Gabkin 学術賞」他を受賞されており、天然ガスハイドレートの研究分野においては、世界をリードしている研究者の一人です。野外調査では、シベリアの永久凍土地帯やバレンツ海、オホーツク海等において先駆的研究を活発に行っ

てきており、博士の最近の研究成果である「地球上の天然ガスハイドレート埋蔵量の計算」は、現在最も信頼性の高い値であるとの評価を得ています。

講演会場には教職員・学生の聴講者が多数集まり、約1時間の講演終了後も活発な質疑応答が行われました。



講演会での質疑応答風景(右ソロビエフ博士)

留学生報告会 “日本の教育制度の良い面、悪い面”

留学生教育相談室講師 菅野 亨

2002年3月18日に、「留学生交流の夕べ」においてパーティに先立ち、留学生報告会が行われました。テーマは、留学生に前もって集まっていたいただき、希望のあった“日本の教育制度について”に設定しました。

参加者は、10名（博士後期2名、博士前期4名、学部3名、短期1名）で出身国は中国5名、マレーシア3名、カンボジアとフィンランドが各1名でした。それぞれ順番に、日本の教育制度について感じていることを話していただきました。

ここで留学生から出された意見を良い面、悪い面の二つに分けて整理して報告します。まず、良い面について出された意見の中で多かったのが、日本の教育は自分で考えて自分で行わせる場が多いということでした。たとえば小学校でゴミ処分場の見学後にレポートを提出させる、また大学の研究室では、理論よりも実験（実践）に重きをおいている、指導教官とのミーティングを行いながら自分の発想で自分なりの研究を進めていく等がありました。

他方、悪い面としては、教科書が薄く日本の子供・学生はのんびりしている、宿題が少なく学力の低下が心配、理論的な面での学習が少ない等でした。

これらは10名という少数による意見でしたが、日本が目指しているとされている、実践に基づいた自主的な教育・学習が進められつつある反

面、学力低下という問題が指摘されているという、まさに日本の教育事情の一面を反映しているという意味で興味深いものでした。



さらに辛口の意見としては、子供・学生が先生を尊敬せず、侮蔑的な言葉を言う場に出くわして驚いたことがあり、いわゆる学級崩壊が起こっていることが理解できる。これは日本の家庭内教育に問題があるのではないかという、教育の根幹を指摘したものでした。また、カタカナ日本語が日本人の英語の発音をおかしくするという意見もあり、外来語をカタカナに置き換えてしまう日本語に疑問が投げかけられました。

以上の意見は、日本の教育制度・教育事情について改めて考える機会を与えてくれ、本報告会は、私を含めて報告会に出席した日本人の方々にとっても有意義な時間でありました。



「2002年留学生交流の夕べ」を開催

(教務課)

3月18日(月)市内のホテルにおいて、留学生と北見市内の国際交流関係者、ホストファミリー、留学生を受け入れているアパートの管理人及び本学関係者など合わせて110名以上の参加を得て「2002年留学生交流の夕べ」を開催しました。本学では、本年度55名の留学生を受け入れており、このうちの14名が今春卒業(修了)し、そのうち4名が本学大学院後期課程に進学しました。

初めに厚谷学長から開会の挨拶があり、続い

て、本年度で本学を離れられる厚谷学長に留学生代表から感謝の言葉が贈られました。

学長から今春卒業(修了)する留学生一人一人への記念品の贈呈及び激励、山岸留学生教育相談室長の新入生紹介の後、報告会が行われました。

引き続き、立食パーティが開かれ、ホストファミリーや支援団体の方々との懇談に移り、なごやかな雰囲気の中に閉会しました。



北見工業大学永年勤務者表彰(退職時表彰)

(総務課)

平成13年度北見工業大学永年勤務者表彰(退職時表彰)が3月29日(金)午前10時から学長室において行われました。

退職時表彰の被表彰者は、土木開発工学科教授 佐藤幸雄氏、共通講座 助教授 藤田一郎氏の2氏が決定され、佐藤幸雄氏は所用のため欠席となりましたが、藤田一郎氏に、学長から表彰状の授与並びに記念品が贈呈されました。



外国人研究者の受入れ

(総務課)

氏名 国籍・年齢	受入学科 職名・氏名	研究題目	受入期間
(Tang Shihua) 唐世华 中華人民共和国・30才	機械システム工学科 教授・小林 道明	超音波非破壊材料評価法	H14 4.1 ～ H16 3 31
(Gai Xiaohui) 蓋曉輝 中華人民共和国・32才	機械システム工学科 教授・二俣 正美	ホローカソード型プラズマトーチを用いた溶射プロセスの高度化	H14 4.1 ～ H15 3 31
(Chen Bing) 陳 兵 中華人民共和国・32才	化学システム工学科 教授・吉田 孝	再生資源としてのカシュー殻についての研究	H14 4.1 ～ H15 3 31

＝ 規程 ＝

北見工業大学受託研究員取扱規程の一部を改正する規程

平成14年4月18日

北工大達第16号

北見工業大学受託研究員取扱規程（昭和60年北工大達第2号）の一部を次のように改正する。

別表（第6条、第7条関係）中、『文部科学省「国立試験研究機関等に従事する研究職員のための国内留学制度」による受託研究員』の項を削る。

附 則

この規程は、平成14年4月18日から施行し、平成14年4月1日から適用する。

改正理由

「受託研究員、私学研修員、専修学校研修員、公立高等専門学校専門研修員、公立大学研修員及び教員研修センター研修員の研究料について」（平成13年3月30日付け12文科振第294号文部科学省研究振興局長通知）及び「受託研究員の受入れ等について（平成13年3月30日付け12文科振第296号文部科学省研究振興局長通知）」の一部改正に伴う所要の改正

= 日誌 =

(総務課)

- | | | | |
|------|-------------------------------------|------|-------------------------------|
| 3月4日 | 学年末休業日(～31日)
第7回附属図書館委員会 | 4月1日 | 春季休業日(～5日) |
| 5日 | 第644回教授会
第121回研究科委員会
入学者選抜委員会 | 2日 | 入学者選抜委員会 |
| 6日 | 前期日程合格発表 | 3日 | 第646回教授会 |
| 11日 | 人事委員会 | 4日 | 平成14年度入学式
学生後援会総会 |
| 12日 | 後期日程入学試験 | 5日 | 大学院専攻主任会議
新入生ガイダンス(編入生を含む) |
| 13日 | 総務委員会
大学院専攻主任会議 | 8日 | 前期授業開始 |
| 14日 | 学長主催特別講演会 | 9日 | 第5回構造改革ワーキンググループ |
| 15日 | 第4回構造改革ワーキンググループ | 10日 | 総務委員会 |
| 18日 | 地域共同研究センター講演会
学生委員会
留学生交流の夕べ | 11日 | 人事委員会 |
| 19日 | 第645回教授会
第122回研究科委員会
入学者選抜委員会 | 12日 | 教務委員会 |
| 20日 | 後期日程合格発表
教務委員会 | 16日 | 入学者選抜委員 |
| 25日 | 平成13年度学位記授与式 | 17日 | 第647回教授会
第123回研究科委員会 |
| 27日 | 学長退官記念講演会、祝賀会 | 18日 | 学生委員会 |
| 29日 | 北見工業大学永年勤続者退職時表彰 | | |